

例会報告 Rotary



- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行高山支店 4F
- 会長 垣内 秀文
- 幹事 大村 貴之
- 会報委員長 中島 一成

イマジン ロータリー

お祝い・会員スピーチ

<会長の時間>

先週に引き続きの話ですが「テレビを見る人が減ってきている」という言説をよく聞きます。特にZ世代、インターネット環境が当たり前で育った若い世代のテレビ離れは著しく、主要局もその世代の獲得を狙った方策を打ち出そうと知恵を凝らしているようです。Z世代の語源・由来はアメリカの「ジェネレーションZ」から来ているようですが年齢は明確ではありません、「1990年半ばから2010年代生まれの世代」を指すことが一般的です

「最近面白い番組が減った」と感じる人も多いのではないかと察します。バラエティでお笑い芸人が相方の頭を叩くだけで「イジメを助長する」などと非難を受ける時代で「なんでもあり」が魅力だったテレビですが、制作側も委縮して「無難な番組」ばかりを作ることになったことも要因だと思います。かつて「最強の媒体」で鳴らしたテレビは、王者ゆえの弱みがあった。圧倒的多数に視聴されるが故に公共を必要以上に意識し、ネット文化とともに広まった炎上を体質的に恐れ番組は丸く、更に丸く作られました。

一方、新進気鋭のネットコンテンツには、丸いテレビで蓄積された鬱憤を発散したい制作者・視聴者がなだれ込んで界限は盛り上がり、時に炎上等を掲げ番組制作に励むことができます。このような状況だからテレビからネットに人がある程度流れたのは時代の必然とも言えると思います。

話を戻しますがZ世代の大きな特徴が、ダイバーシティの許容です。例えば北米や北欧各国で同性婚カップルの合法化が相次いだのは2000年代であり、日本では法制化されていませんがLGBTQを始めとする多様性を認める世界的な動きを受けて育ってきたのがZ世代です。さらに1900年代後半から2000年代にかけては日本国内の外国人在留者が総人口の2%に迫る勢いとなり日本国内のみならず世界各国でも多くの移民の子どもの誕生し、様々なバックグラウンドを持った人々が身近にいることが当たり前になってきました。そういった世界的な動きにSNS等の普及も相まって、性や人種などの多様性を受け入れ認めようという価値観を持っているのがZ世代でもあります。

また、Z世代の多くは日本国内で2002年から2010年まで施行された「ゆとり教育」を受けた世代で、自ら主体的に学んだり選択したりする自主性や自律性を重視する傾向にあります。バブル崩壊による経済の低迷や、阪神淡路大震災・東日本大震災といった大きな災害、さらに新型コロナによる世界全体の社会構造の変化など、Z世代は社会の変遷に晒されながら生きてきました。それらの劇的な環境変化を受け、自らを含めた人々の幸せや生きる事に関心が高まっているようです。経済成長を絶対的目標として掲げてきたこれまでの社会とは異なり、Z世代は環境や弱い立場の人々の配慮を通して、多様性の中で共生する世の中を目指していくのかもしれない。

ロータリーが言うダイバーシティ&インクルージョンとは性別、年齢、障がい、国籍、ライフスタイルなどの外面や、職歴、価値観などの内面に関わらず、それぞれを尊重、認め、良いところを活かす事とし、いずれは私たちの子供や孫の世代がロータリーを担っていく時代になります。義理人情を絡めた会員増強策が、ネットネイティブな若年齢層には通用しません。今のロータリアンはブーマー世代(1946-64生まれ)が中心で、それに続くミレニアル世代(Y

世代)やZ世代の思考や感性の違いを理解しないと、彼らを入会に結びつけられるのか疑問です。我がクラブも世代の空白をつくらぬよう、年齢バランスのとれたクラブ会員構成を保ち続けていくことが重要になると思います。

<幹事報告>

◎ガバナーより

- ・世界ポリオデーイベント フォトコンテストのご案内
ポリオ根絶の想いを伝える写真を募集 応募はポリオデーポータルサイト <https://www.endpoliorotary.club/home> まで
- ・ロータリー文庫 2021年決算報告書、2022年予算書
- ・基本的教育と識字率向上月間 リソースのご案内

◎国際ソロプチミスト高山より

- ・新事務局のご案内(2021年9月~2022年8月)
〒506-0057 高山市匠ヶ丘239-1 (株)打江精機内
打江 記代(会長) TEL 32-0035

<例会変更>

- 高山中央 … 9月19日(月)は、法定休日(敬老の日)のため 休会
9月26日(月)は、
高山3クラブ合同ガバナー公式訪問例会のため
30日(金)12:30~ 高山グリーンホテルに 変更

<受贈誌>

- (社)高山市文化協会 (広報高山の文化No239、高山メセナメイト会報No77)、岐阜県環境生活部人権施策推進課長(人権だよりNo90)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
28名	-	28名	35名	80.00%

<本日のプログラム>お祝い

◎会員誕生日

- 田中 武 9.17
- 堺 和信 9.15
- 田邊 淳 9.20
- 杉山 和宏 9.21

◎夫人誕生日(当日、ご自宅に花束をお届け)

- 大村 貴之 真由美さん 9.18
- 遠藤 隆浩 明日香さん 9.24
- 富岡 恒重 泉さん 9.11

◎結婚記念日(一週間ほど前にご自宅へグリーンホテル商品券を郵送)

- 富岡 恒重 9.11

◎出席表彰

- 阪下 六代 32年

例会報告

◎在籍周年記念表彰

なし

◎3ヶ月表彰

- ・内田 幸洋 ・斎藤 章 ・阪下 六代 ・中島 一成
- ・狹土 貞吉 ・門前庄次郎

会員スピーチ

田中 武

会員スピーチをやれという事で、垣内秀文会長と大村貴之幹事から仰せ付けられました。もっと他の方にと言ったんですが「RCの原則・NOと言えない事事は知っているんですね？」と言われその言葉で一言もなくお受け致しました。

入会年月日 平成13年3月(2001年)21年間経ちました。入会推薦者は、一番最初に同期生の井口忠義君(井口大輔君のお父さん)が何回も通って頂きましたがその時は返事が出来ませんでした。そうこうしている間に彼が平成10年10月9日55才という若さで死去されました。其の後に、また同窓生の脇本敏雄君から何回も来て頂き余りお断りするのも良くないと思ひ入会させて頂きました。その時に脇本君は、もし入会出来ても、日頃の行い素性、ロータリーはNOとは言えない、時間厳守、一人でも反対が有れば入会できない等、厳しい条件を付けられました。その時に私もどうしても入りたいとは思っていませんでしたから、条件に合わない事ばかりで絶対に無理と思ひ安心していました。それから数日間経って何とかお前でも入会出来る様になったので感謝しみたいいな事で入会させて頂いた様なわけです。

その頃の会場は、飛騨地域地場産業振興の4階、当時の会長さんは小森丈一さんでした。それから数年後に、会員の長瀬達三さんのお父さんである長瀬三男さんのプログラム委員会で初めて委員をさせて頂きました。それから、出席委員、プログラム委員、新世代、環境保全、親睦活動、社会奉仕、平成24年度は副会長をさせて頂き翌年会長エレクト、そして平成26年度に適材適所の人が居なかったとは聞いていましたが、幹事経験無しで異例だったとは思いましたが、第50代会長職をさせて頂きました。またその年は台北東海RCの創立20周年記念に招待され訪問。我がクラブとは2000年4月に締結式がグリーンホテルで行われていました。そんなこんなで何もわからず行かせて頂きました。その時の幹事さんが、門前庄次郎さんで、全てやって頂きましたおかげですべて巧く往きました。また訪問できれば行きたいと思っています。感謝感謝です。第55代遠藤隆浩会長さんの際、台北東海RC創立25周年訪問は今のコロナで中止になりました。

話は別ですが私の生年月日はご存じだと思いますが昭和18年、戦時中生まれです。私達の作っています会、昭和18年~19年生まれで『八九の会』RC入会当時のメンバーは8名居ました。田近 毅、岡田 贊三、私 田中 武、脇本 敏雄、村瀬 勝彦、岩田 勇、小林 勝一、垂井 政機。現在在籍中では(岡田贊三 7/25)(田近毅 7/26)田中武(9/17)三人の中では私が一番若い訳です。

私とロータリーとは何かと考えてみました。皆さん忙しい中で週一の昼間、ふつう昼間は皆さん忙しい時間では?と私も疑問は持ったんですが、皆さん平気でやってみえます、なんでかな?経営者だから時間に融通がつくのかなかと思いました。始めは無我夢中でした。それが何年間もやっているとそれが当たり前になるように、何でかな?それは異業種の方々と色々な話が出る事、考え方の違いがあったり、分からない事が有ったり、沢山有ります。分からない事はもう一回聞けば良い、自分が知っている事が有れば話せば良い、地区大会も勉強になりました。やはりロータリーの目的である『四つのテスト』言行はこれに照らしてから ① 真

実かどうか ② みんなに公平か ③ 好意と友情を深めるか ④ みんなのためになるか どうか この『四つのテスト』。今更ながらですが本当に灌漑深い意味がある事を心より感じています。

又、話は違いますが携帯電話、スマホ、パソコン、タブレット、オンライン、ズーム…。戦時中生まれは大変です、付いて行くのに命がけです、助けて下さい。

以上です。拙い話を聞いて頂きましてありがとうございました。

斎藤 章

①「源義経=ジンギスカン」説

「源義経=ジンギスカン」説の誕生

- ジンギスカンとなった「テムジン」は「ニロン」族の出身だが、これは「日本」族の「天神」のなまりである
 - チンギス・ハーンは別名「クロー」と称したが、これは「九郎判官」である
 - モンゴル帝国の「元」は「源」から来ている
 - モンゴル文字に平仮名からヒントを得たとしか考えられない文字が存在する
 - 相撲、乗馬、緑茶、服など共通の文化が数多い
- さて、そんなチンギス・カン義経説。我が国の歴史学の大家までこの説を裏付ける。以下のものである。
- ・ヨーロッパ系、コーカソイドではない。
 - ・インドは今のアーリア人的ないまのインド人の顔と超古代のインド人の顔はまったく異なる。ところで、大陸の人の発音では、チンギスハーンとも、ジンギスカンとも言われ、チとジ、ハンとカンの区別が怪しくなってくる。だから、カザールもハザールも同じ意味である。

ユダヤ問題

- 国家的な「ユダヤ化政策(改宗政策)」を推し進めたハザール王オバデアから200年たったヨセフ王時代の書記は、以下のような記録を残し、ハザール人は全トルコ民族の先祖であるトガルマを通じ、ノアの長男セム(黄色人種)ではなく第3番目の息子ヤペテ(白人種)の直系子孫であることを断言している。

「……我々の父祖の系図から、トガルマには10人の息子があったことを知った。その子孫の名前はウィグル、デュルス、アヴァル、フン、バシリー、タルニアク、ハザール、ザゴラ、ブルガル、サビールである。我々は7番目の息子ハザールの子孫である。」

ハザール人が現在のアシュケナーズユダヤ人こと東欧のユダヤ人の祖先である。が、そのハザール人の祖先はトガルマ人であり、そのトガルマ人の子孫は10家系が存在したというのである。

それが、ウィグル、デュルス、アヴァル、フン、バシリー、タルニアク、ハザール、ザゴラ、ブルガル、サビール

- (1)ウィグルはもちろんいまの中国に弾圧されているウィグル族だろう。
- (2)フンは元のフン族=高句麗の祖先だろう。
- (3)タルクニアクはトルクメニスタンの語源だろう。今年のサッカーのアジア杯で最初に日本が戦った相手である。
- (4)ハザールはカザール。古代ハザール帝国やいまのカザフスタンの元だろう。
- (5)ブルガルはいまのブルガリアだろう。

他5つのデュルス、アヴァル、バシリー、ザゴラ、サビールがいまのどこに当たるかはわからない。というわけで、ユダヤ人と朝鮮人の共通のルーツにトガルマ人という未知の民族がいたことになるわけだ。トガルマはトルコの先祖というから、トゥルク、秦、唐の系譜の民族の祖先ということになるだろう。白人種だという。要するに、3000年ほど前に西アジアから侵入してきた、アジアにおける「アーリア人の侵入」を行った金髪碧眼種がトガルマ人だろうと考えられる。

